

ほ ど 教育センター通信 火床の火の心を紡ぐ

第7号（通算 101号）
令和4年 11月 28日
三条市教育委員会
教育センター 発行



11月14日（月） さかえ学園
フラワーロード活動 スイセンの球根植え

授業研究の意味は？

教育センター 統括指導主事 吉田 卓司

「なぜ授業研究を行うのですか？」と聞かれたら何と答えますか？

2学期になり、多くの学園・学校で授業研究が行われ、OM訪問やSTEP研修で授業を見せていただく機会も増えています。どの授業も、「三条市授業スタンダード」や「小中一貫教育カリキュラム」等を意識しながら、学習問題を中核とした子ども主体の授業を具現しようと工夫された内容となっています。また、教室に入った瞬間にこれまでの学びの履歴などが掲示され、日々の授業が充実している様子が伝わってきます。参加する皆さんは、学校や校種を超えての指導案の事前検討や、授業を参観する時間をつくり協議会で活発な意見交換を行っています。参加させていただいたたび「自分が同じ年代の頃より皆さん遥かに立派だよなあ。」と感じながらも、自分なりに考えたことや感じたことを指導させていただいています。

自分自身、授業研究に関しては、うまくいったと感じる経験はほとんどなかったなあと記憶しています。何か大変な割に報われないなあ。昔、授業研究が終わった後に先輩に言われた印象に残る言葉があります。それは、「授業研究が終わってホッとしている場合ではない。ようやく明日からの授業のスタートラインに片足を付いたくらいだ。」です。一つの授業研究がうまくいったかいかで判断するのではなく、その成果と課題をいかに日々の授業に生かしていくのが大切だということです。

さて、最初の問いの答えは、自分なら「日々の授業を充実させて、子どもたちに確かな学力を付けたいからです。」と答えます。それが正しいか分からないですが、一人一人が意味をもって授業研究を行うことが大切なのだと感じます。

学校に行き、授業を見せていただくこと、子どもや先生方の頑張っている姿を見せていただくことはとても嬉しいですし、楽しいですし、多くのことを学ばせていただいています。これからも様々な場面で授業参観の要請をしていただければ幸いです。子どもたちのために、一緒に学ばせてください！

学 園 紹 介

三条学園

10月13日(木)、三条学園「いじめ見逃しゼロスクール集会」が実施されました。講師として日本アンガーマネジメント協会の波多野儀弘氏を招き、「より良い人間関係のためのアンガーマネジメント」を中心テーマに、ハイブリッド形式(第三中学校は対面式、裏館小学校・上林小学校はリモート形式)で行いました。「イライラしたときの三つの対処法」や「相手の目を見ない伝え方と目を見ての伝え方」、「嫌な気持ちのより良い伝え方(相手を責めない伝え方)」などについて、良い例と悪い例をペア活動で体験しながら学びました。ある生徒は感想で「友人や家族にイライラしてしまった時は、深呼吸を3回して、怒りの感情をコントロールすることを心掛けたい」と話していました。みんなで「より良い人間関係」をつくっていかこうとする気持ちが高まる有意義な会となりました。



四つ葉学園



10月25日(火)、四つ葉学園の防災教育の事業として、「防災さんぽ」が実施されました。この活動は、第四中学校の生徒が出身小学校に赴き、小学5・6年生と地区ごとの班(井栗小9班、旭小5班、保内小5班)を作り、災害発生時に危険が予想される場所を歩きながら学んでいくもので、今年度が2回目の実施となります。



10月上旬には、自治会長をはじめ、災害対策に詳しい各地区の案内人約50人と、教職員による打合せ会を実施しました。教職員が地域ごとに案内人の話に耳を傾け、事前に学びました。

当日は、平成23年に起きた7.29水害の経験を基にした話をいただいたり、防犯カメラの設置等、自分たちが住んでいる地域の安全への取組についての話もいただいたりしました。子ども

たちにとっては、普段何気なく見ている光景にも、様々な歴史や意味があることを知る機会となりました。

各地区を巡った後は小学校に戻り、安全マップに危険個所の写真等を貼り、いざというときの行動の仕方を確認しました。

災害発生時に最善の行動がとれるかどうかは、危険を具体的にイメージすることにかかっています。子どもたちは、このあたりの案内人の話に耳を傾け、イメージを膨らませていました。



三条おおじま学園

10月28日(金)に「ゴミ拾いウォーク」が実施されました。これは、三条おおじま学園すべての児童生徒と教職員、地域の方が合同で行う行事です。学園の子どもたちが地域への愛着を深めるとともに、学園としての連帯感をもつことや、中学生がリーダーシップを小学生に示すことにより、小学生が中学生に憧れの気持ちをもつことなどをねらいとして行われました。当日は、大島中学校の生徒が出身小学校に出向き、児童生徒、教職員、地域の方を合わせて約280人が大島小と須頃小それぞれの周辺道路で活動しました。縦割り班ごとに地域を歩き、ゴミ拾いや危険個所の確認などを行いました。

天候にも恵まれ、子どもたちは各班で記念写真を撮るなど、終始笑顔で活動していました。子どもたちからは、「班の目標決めるときに小学生がたくさん意見を出してくれて助かった。班の人と協力し仲が深まったと思った。」「小学生に燃えるゴミか燃えないゴミかを教えていっぱい拾うことができた。小学生とコミュニケーションをとることができてよかった。」「通学路にゴミが多く落ちていると実感したので、気付いたら拾うことはもちろん自分から捨てないようにしていきたい。」などの感想が出されました。



大島小学校周辺



須頃小学校周辺

「学習活動に困難のある子どものアセスメントと支援」研修 11月9日(水)実施

上越教育大学准教授の池田吉史様から、御講演いただきました。ディスレクシア(読字障害、書字障害)、ディスカリキュリア(算数障害)について、2時間にわたり丁寧に御講演いただきました。怠けているわけではなく、読み書きや数処理に困難を抱えている児童生徒がいることを正しく認識し、早期に発見して適切な指導や支援を行うことが大切であることを改めて学ぶ機会となりました。



【講演の中から(一部抜粋)】

- ・読み、書きの発達には段階がある。読字なら、一文字ずつの逐次読みから始まって、小学校2年生以降でまとまり読みができるようになる。習熟してくると文字を読まずにイメージで読める。視覚機能、音韻処理機能、小脳機能など、弱さによってつまずきが異なる。教科書をずらして読む様子が見られたら視野が狭いかもしれないし、傾きが分からないと「リ」と「ソ」の区別がつかない。ADHD傾向があって集中して見られないこともある。どこにつまずきがあるのかアセスメントし、適切な支援をすることが大切。学校のみで頑張るのではなく、医療や心理士に依頼することも方法の一つ。
- ・数の概念は生後5か月頃から見られる。遊びの中で覚えていくが、そうでない子は丁寧に教える必要がある。

【漢字の指導例】

- ・文字の構成要素を音声言語化して学習する聴覚法
- ・漢字の偏や旁を組み合わせるパズル
- ・なぞり書き、砂に指で書く粘土で文字を作るなどの感覚運動
- ・思い出す手がかりを子どもに考えさせてかるたに絵を描かせるなどのエピソード記憶

【参加者の感想(一部抜粋)】

- ・読字、書字、算数障害のチェックリスト等、明日にでも使える内容がたくさんありました。語彙を増やすためのことばカードは、すぐに実践してみようと思います。
- ・学習障害の要因を様々な角度から詳しく教えていただき、大変勉強になりました。
- ・「つまずいているところに合わせて手立てを考える」「そのためにどこでつまずいているのかアセスメントする」ことをこれからの指導に生かしたいと思います。

令和4年度 刃物ものづくり教育の推進

1 ねらい

児童生徒のものづくりに対する興味・関心を高め、その楽しさや素晴らしさを実感できるようにする。そして、三条の「ひと」や「もの」と触れ合い、関わり合う中で友達と活動することに喜びを感じたり、周りの人々に感謝したりする心を育むとともに、「ものづくりのまち三条」のよさを知り、「ふるさと三条」を愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。

2 活動内容

三条で育つ子どもたちに、ものづくりの歴史と心を知ってもらいたいという願いから、小学校で、「①和釘づくり学習、②小刀学習」、中学校で「③包丁研ぎ学習、④木工用工具学習」と①～④の体験学習を実施しています。それぞれ、在学中に1回は体験することとし、金物の町三条の原点に触れることができます。「ものづくりのまち三条」の金物の歴史や道具の扱い方などを学ぶ体験学習を実施しています。

(1) 小学校・義務教育学校前期

①「和釘づくり学習」

三条鍛冶道場を会場に、三条金物の講話の後、三条鍛冶道場の指導員の指導で、火床に鉄の材料を入れ、真っ赤になった材料を金づちで形を整え、「階折釘（かいおれくぎ）」を作りました。講話では、平成25年の伊勢神宮の式年遷宮で約20万本の和釘を三条でつくったと聞き、「三条市のものづくりはすごい！」との感想がありました。



②「小刀学習」

シルバー人材センターの指導委託で、小刀の正しい使い方を学習し、「竹とんぼ・竹箸・鉛筆けずり」から一つ選択し体験します。初めて小刀を使う児童がほとんどで、最初は、怖がる様子が見られましたが、扱い方を教わり、少しずつ慣れて、自信をもって作業する様子が見られました。（右の写真は竹とんぼの材料。）



(2) 中学校・義務教育学校後期

③「包丁研ぎ学習」

シルバー人材センターの指導委託で、包丁や砥石の種類、研ぎ方の講話の後、実際に砥石を使って包丁を研ぎました。最後に新聞紙で試し切りを行い、その切れ味に、繰り返し使える包丁の「研ぎ」のすばらしさを実感しました。使った砥石は家庭にプレゼントし、学習の成果を生かします。



④「木工用工具学習」

三条市建築組合の指導委託で、鋸（のこぎり）と鉋（かんな）で実際の木材を使って作業を行います。鋸でほぞを作ったり、鉋で木を削ったりして、一流の職人技に触れながら体験します。生徒はのこぎりで、木材をまっすぐに切るのに苦労していました。



3 まとめ

事後のアンケートによると、「三条のものづくりの歴史がよく分かった」「職人さんの技術は凄い」「将来建築に関する仕事に就きたい」との感想があり、キャリア教育の推進にあたり、刃物ものづくり教育は大きな位置を占めています。ぜひ来年度も継続して実施していきたいと考えています。